



公民

「学習の前に」を活用して、 出会いの授業を楽しく —第3部「経済」の学習を例に—

北海道 東神楽町立志比内小学校 教頭（前北海道公立中学校教諭） 山辺 慎太郎

1 はじめに

現在の新型コロナウイルス感染拡大の状況にあって、「経済を回す」という言葉をよく耳にするようになった。中学生の口からも「経済を回す」という言葉を聞くことがある。コロナ禍において、感染拡大を抑えることが優先されるべきか、それとも経済活動の活発化が優先されるべきか。そんな議論をしばしば見かける。「経済を回す」と世の中は活気付いて生活が豊かになり、「経済が回らない」と世の中は停滞して生活が苦しくなる。昨今の状況から、中学生はそのことは知っているだろう。「経済」が、私たちの暮らしに直結していることを、生徒たちは認識しているはずである。

中学校社会科公民的分野、経済単元の学習は、生徒が「経済」について学ぶ第一歩である。「経済を回す」とは、具体的にどういうことなのか。この単元の学習を通して、生徒は理解できるだろう。本時は、生徒と「経済」との「出会いの授業」である。最初の授業で教師がいきなり「経済というのは…」と語り始めてしまえば、せっかくの「出会い」が台無しである。『社会科 中学生の公民』（以下、教科書）には、各部のはじめに「学習の前に」というイラストが掲載されたページが設定されている。この「学習の前に」を活用して、生徒がアクティブに学習に取り組みながら「経済」を大観できる「出会いの授業」の例を紹介する。

2 授業展開

教科書p.107～108を開かせ、イラストを提示する（図1）。はじめに「やってみよう」を教師が読み上げ、①～⑥の場面をイラストの中から探させる。ここでこの課題に取り組ませるのは、生徒にイラストを隅々まで見せ、これが何を描いたイラストであるかを理解させるためである。教師の詳しい説明を省くことができる。特に難しいこともないので、すぐに答え合わせをする。

そして、次のように問う。

このイラストで、お金が使われているところはどこですか。

「お金が使われる」の定義はあいまいなままでよい。もし生徒に意味を聞かれたら「お金がお金として使われる、ということです。」と返答しておく。

結論からいうと、このイラストの中のすべてのものに対して「お金が使われ」ている。例えば、バスの停留所。太古の昔から自然にそこにあったわけではない。バスを運行させるために、バス会社がお金を使って業者に造らせ、意図的に設置したものである。

しかし、中学生である生徒たちは、日常生活において「消費者」としての立場で経済活動を行うことがほとんどである。したがって、「お金が使われている」と問われて、真っ先に生徒の目が向かうのは、お金を支払っている人物である。コンビニ、スーパー、美容院、パン屋…レジでお金を使う（支払う）人物をあげるであ



図1 「社会科 中学生の公民」 p.107～108 「学習の前に 身の回りの暮らしと経済について見てみよう」をもとに一部加工

ろう。教師は、生徒に発表させながら、電子黒板などに提示したイラストに○をつけていく。

生徒の目がレジにしか向かないようであれば「まだたくさんありますよ」などと声をかけて生徒の挑戦意欲をかき立てる。

バスの運賃をカードで払っている人物（図1-a）を見つけている生徒がいたら、「よく気付きましたね！」とほめる。現金は使われていないが、お金はカードにチャージされている。チャージする際にお金が使われている。

「お金を使う」＝「レジでお金を払う」という「しぼり」から解放されると、生徒たちは次々と「これもそうじゃないか？」という考えをもち始め、気が付きが広がっていく。資料で見えていることを根拠として、見えていないことを「見

小学校との関連 経済と私たちの生活
 私たちはさまざまな場面でお金を使っており、お金や商品などが人々の関を運ぶことで現代の社会は成り立っています。例えば、パン屋さんでパンを焼くと、支払ったお金はパン屋さんに渡ります。そこからパンの原材料費やパン屋さんに働く人々への給与が支払われます。その給与で人々は買い物をし、さらにお金が回っていきます。第3部では、人々が生産や消費などの活動を通じてどのように社会を豊かにしているのか、その意義やしくみを学習してみよう。

える化」していく。授業が俄然、活気をもち始めるところである。

ある生徒はパン屋で小麦を仕入れている場面（図1-b）に目が行き、ここでも「お金が使われている」と気付く。こういった場面でも「お金が使われている」ことが分かると、コンビニやスーパー、パン屋、携帯ショップ…お店に並んでいるものすべてが仕入れのために「お金が使われた」ものであるという考えへと広がっていく。

従業員に給料を支払っている場面（図1-c）に目を向ける生徒もいる。お店の経営者が従業員を雇うために「お金が使われている」ことにも気が付く。そう考えると、イラスト上のすべての従業員に同じように○が付くようになる。

電気メーターの検針の場面(図1-b)から、「電気代としてお金が使われている」という生徒も出てくる。そこから発想が広がり、自動販売機の電気代、バスやトラックのガソリン代も「経費としてお金が使われている」と考えるようになる。

ある生徒は銀行に目を向ける。銀行にお金を預けている人物に気が付き、広い意味でこれも「お金が使われている」と考える。その考えを聞いて、教師は受け入れ、ほめる。

「銀行」や「ごみ収集作業」(図1-d)は、生徒が「お金が使われている」ということに気が付きにくいところである。もし授業の流れでこれらが生徒からあげられていなければ、例えば、「銀行ではモノを売っていないから、売り上げはないのかな?」「ごみ収集作業員も働いているけど、その給料は誰が払っているのかな?」など教師側から投げかけてみてもよい。銀行が利益を上げるしくみや、ごみの収集に税金が使われていることを知っている生徒もいるかもしれない。小学校での学習の成果なども生かしながら、授業を進めていく。

このイラストのすべての場面で「お金が使われている」のだから、生徒がどれを取り上げても正解である。発表した生徒に、そこで「お金が使われている」と考えた理由も発表させるとおもしろい。単元の導入なので、厳密に正解であることは求めない。本時は出会いの授業である。正確さももちろん大事だが、それ以上に、生徒たちの学習への意欲や期待感を高めるため、生徒の気付きや発言をすべて認めて、どの生徒も活躍できる雰囲気をつくっていききたい。

次に、生徒からたくさん出された「お金が使われているところ」をもとに、このイラストに描かれている「お金の流れ」を図にまとめる。ここからはグループ学習で行っていく。

グループに分かれる前に、図に記入する登場人物を整理する。描かれているたくさんの人物を「お客」「お店」「従業員」などとひとまとめにする。また、イラストには描かれていないが存在が想定できる登場人物、例えば、商品の仕

3年公民 第3部「経済」 []組 []番 氏名 []

学習の前に 身の回りの暮らしと経済について見てみよう

① p.107～108のイラスト「はるの市若木地区商店街」のお金の流れを図で表してみよう。

② コロナ禍の現在、テレビなどでよく「経済を回す」という言葉を耳にします。このことについて、教科書の p.107～108 のイラストや①で書いたお金の流れの図をみて、次の問いに対するあなたの考えを書きなさい。

(1)「経済を回す」とはどのようなことだと思いますか。

(2)「経済が回らない」と生活が苦しくなるといわれているのはなぜだと思いますか。

図2 ワークシート

入れ先である業者などについては、無数にあるので「生産者」などとひとまとめにする。また、ごみ収集作業員の背中に「はるの市役所」とあるので、これも「市役所」とする。これらは、授業の中で出された生徒の発表によって変えてもよい。できるだけ登場人物は少なくして、シンプルに考えられるようにする。

登場人物が決まったら、ワークシート(図2)を配布し、グループの話し合いに移行する。

グループで話し合いをさせながら、ワークシートの①に図を書き込ませる。最終的に図3のように登場人物を配置し、「お金が使われる」方向に矢印でつないで図ができ上がる。

本来であれば、「お金が使われる」ことに対する対価、モノやサービス、労働力等の矢印も図に書き入れるべきであろうが、そうすると図が複雑になるので、本時では行わない。後の学習でそのことについては触れるし、本時ではお金が人々の間をめぐる様子が図示でき

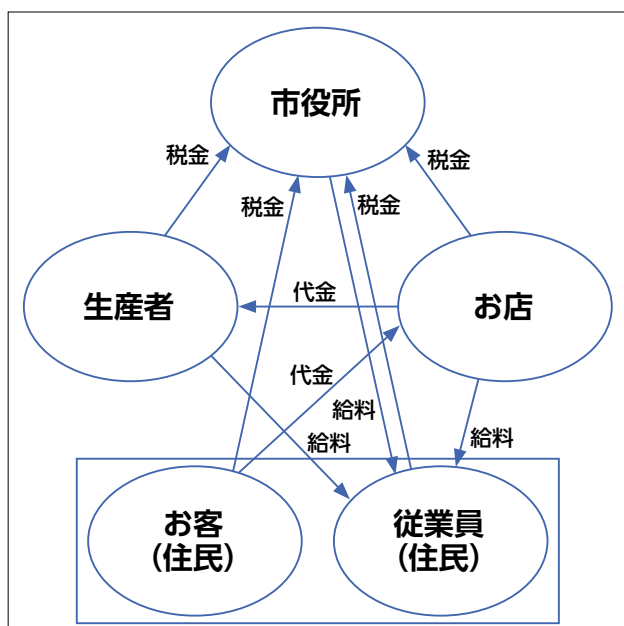


図3 「若木地区」商店街のお金の流れ

ば十分である。

矢印には、「代金」や「給料」のように、そのお金の流れを表す言葉を添えさせる。どれとどれを結ぶか、どのような言葉を添えさせるかをグループで話し合わせて決めさせる。

図が完成したら、グループごとに発表させる。単元の導入であるので、ここでも矢印の結び方や用語などについても厳密な正解は求めない。考えが伝わればよしとする。

世の中には、さまざまなモノやサービスを生産したり、売ったりしている人々が無数にいる。一方で、そのモノやサービスを欲しがったり、必要としたりしている人々も無数にいる。それらの人々の間にお金がめぐることによって、私たちの暮らしが成り立っている。図の作成を通して、そのような私たちの暮らしのあり方を生徒に大観させたい。

3 評価 ～主体的に学習に取り組む態度～

私たちにとって「経済」は切っても切れないものである。しかし、生徒にとって「経済」は決して身近な存在ではない。単元の学習前から、「経済」について興味津々の生徒はまれであろう。私たち社会科教師は、生徒たちが、本単元で「経済」についての知識や技能を身に付け、「経

済」に対する意識を高めていくことを期待して、単元の授業を展開していく。本時、生徒たちは「経済」に対して「素」の状態である。そこから単元の学習を経て、どのように変容していくのか。その変容を見取っていくことで、本単元の評価をしていく。特に本時は、「主体的に学習に取り組む態度」の評価と関連させやすい。

そこで、ワークシートの②に、生徒たちの「経済」に対する意識の変容を見取るための問いを用意した。しかし、最初の授業を受けただけの段階で、「経済とは何か?」「経済活動とはどのようなことか?」などと大きなテーマについて聞いても、生徒たちのペンの進みは鈍くなるだけだろう。できれば最初の授業でも書きやすいテーマを選びたい。今回は、冒頭に書いた「経済を回す」ということについて、教科書p.107～108のイラストやグループで話し合った図を足がかりにして書かせることにした。これについては、その時々で話題となっているトピックを取り上げるとよいだろう。

ここで書かせた問いは、同じことを単元の最後にもう一度問う。最初は経済に対する漠然としたイメージで書かれていた記述が、単元の学習を通して身に付けた自分なりの視点から書かれた記述に変わってくる。そこに、本単元における生徒の「主体的に学習に取り組む態度」の変容が現れてくるはずである。

4 おわりに

「学習の前に」に描かれている1枚のイラストを読み取ることで、生徒に単元の学習に見通しをもたせることができる。「学習の前に」の活用は、「主体的・対話的で深い学び」のある授業づくりにおいて大変有効である。各部に設けられているこの「学習の前に」を有効に活用し、生徒たちにとってより価値のある授業づくりを今後も進めていきたい。

帝国書院のウェブサイト、
本授業研究のワークシートを掲載いたします。